

学校経営計画・学校評価シート

高知若草養護学校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	目指すべき姿	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき組姿の実現に	学校経営の大きな4本柱として、Ⅰ教育課程の改善、Ⅱ主体的・対話的・深い学びの推進、Ⅲ文化・芸術・スポーツの振興、Ⅳ働きやすくやりがいのある職場の実現に取り組む。 肢体不自由の特別支援学校として、専門家と連携した教育を進めるとともに、南海トラフ地震対応や、日常的な医療的ケア、日々の指導・支援において安心・安全な学校づくりを進める。 また、地域に必要な学校とされるために、交通安全指導(旗振り)、地域清掃等に積極的に取り組むとともに、福祉避難所の開設を想定した地域との合同避難訓練を実施し、共助の関係を構築する。
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域の連携・協働			○何事にも主体的、意欲的に取り組む児童生徒		

《重点取組項目》

項目		目標【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
(専門性の向上)	教育課程の改善	◎教科別指導の重視 ○Ⅰ類型 自立活動と国語・算数(数学)等の教科の目標と内容を明確にして実践を深め、指導事例を系統的に整理し蓄積する。 ○Ⅱ類型 各教科等を合わせた指導と国語・算数(数学)等の教科別の指導の関連を明確にして実践を深め、指導事例を系統的に整理し、蓄積する。 ○Ⅲ類型 肢体不自由児童生徒の特性や実態に応じた教科別指導の在り方を追求し、より良い教育課程を編成する。	○実践事例集の作成 ○各類型の新教育課程の編成	○作成しやすく、活用しやすい実践事例の報告様式を作成する。 ○各類型において、発達段階(チェックリストの活用)や特性に応じた指導事例を全教員が一例以上提出する。 ○集めた指導事例を、発達段階別、課題別に系統的に整理する。 ○検討課題を明確にし、学期ごとに各教育課程の検討を行う。 ○個別の指導計画の様式を検討し、実態把握⇒目標設定⇒単元設定のシステム化を進める。	B ○14事例あり。 ・今後、事例集作成に向けて質の精選が必要 ・公開授業略案と運動した実践事例集様式を提案。 ○教育課程検討会議の開催9/4(管理職・教務・研究・主事) ・2学期以降に、それぞれが取り組むべき内容の確認	A ■教育課程の改善-1(わかる授業) 教職員①67.5% ②14.5%③2.4%④15.7%【肯定:82%】 ◇研究授業でいろんなアドバイスがいただけるのはうれしい ○実践事例集の作成 ・実践の蓄積(42事例) ・事例集作成 ■教育課程の改善-2(ねらいの明確化) 教職員①47.0% ②42.2%③6.0%④4.8%【肯定:89.2%】 ◇分掌部が体制を整備してくれており、十分にできていると思う ○各類型の新教育課程の編成 ・教科重視の教育課程を確認 ・教育課程PDCA年間の流れ提示 ・類型別振り返りシートによる次年度教育課程の検討実施 ・個別の指導計画新様式原案作成	A ■教育課程の改善-1(わかる授業) 児童生徒①68.4% ②26.3%③0%④5.3%⑤0%【肯定:94.7%】 ◇授業が分かりやすい 保護者①68.5% ②25.9%③1.9%④0%⑤3.7%【肯定:94.4%】 ◇能力に合わせていろいろな学習させてもらっている できること、変化したことが増えた ■教育課程の改善-2(ねらいの明確化) 児童生徒①89.5% ②10.5%③0%④0%⑤0%【肯定:100%】 ◇問いかけに考える時間をくれたり分かりやすく説明してくれたりする 保護者①75.9% ②24.1%③0%④0%⑤0%【肯定:100%】 ◇学校での様子を話や連絡帳で伝えてくれる 開かれた外部委員 ◇実践事例集が充実している 公開授業の取組が良い	■実践事例集の活用 ・活用により教員の困り感の軽減 ・活用により教員の授業力の向上 ・新たな実践の蓄積 ■新教育課程の編成 ・Ⅰ類型:教科の時間増 ・Ⅱ類型:合わせた指導を教科別指導にできるか検討 ・Ⅲ類型:当該学年の目標達成、内容習得を目指す(必要に応じて前学年・前学部の内容を復習) ・教育課程検討委員会の実施
	主体的・深い対話的学びの推進	◎「主体的な学び」と「対話的な学び」の推進、「深い学び」の追求 ○「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」を活用した公開授業の積極的な実施により授業改善に取り組む。	○Ⅲ類型生徒の授業満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」回答)60%以上 ○全教員の公開授業実施100% ○公開授業での「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」活用率100%	○授業改善のシステムを確立し、全教員が公開授業を実施し、授業改善に繋げる。 ○全教員が「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」での授業の振り返りを行う。	B ○公開授業実施率26.4%(14/53) ○授業改善シート活用率100%(14/14) ・管理職が、授業改善点について把握し評価する。	B ■主体的対話的深い学びの推進(授業改善) 教職員 ①48.2% ②47.0%③1.2%④3.6%【肯定:95.2%】 ○公開授業実施率77.2%(44/57)(教科で実施93.2%) ◇シートの活用により、「主体的な学びとは・・・」と意識しながら行うことができている ◆期限付講師に公開授業の指示がなかった ○公開授業での「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」活用率100% ・授業改善シート及び付箋を活用した評価・改善システムの確立	A ■主体的対話的深い学びの推進(授業改善) 児童生徒①68.4% ②26.3%③5.3%④0%⑤0%【肯定:94.7%】 保護者①68.5% ②27.8%③3.7%④0%⑤0%【肯定:96.3%】 ◇子どもが毎日「学校に行きたい」と思う取組をしてくれていると思う ◇できることは伸ばしてくれて、苦手なことも上手にできるように指導してくれていると思う 開かれた外部委員 ◇訪問教育を受けている我が子の授業を見ていて、教科の視点で評価してくれていたのかと気づいた ありがたい	■公開授業から得た成果と課題の分析 ・効果のある実践の検証と、授業改善へのチャレンジ ■検証すべき視点の「見える化」の継続実施(授業改善シートや付箋の活用)
(文化・芸術・スポーツの充実)	文化・芸術・スポーツの振興	◎文化・芸術の推進 ○文化・芸術に関連した学習及び社会参加の一層の推進を図る。 ◎障害者スポーツの振興 ○体育や部活動に障害者スポーツの競技種目を取り入れる等社会参加の一層の推進を図る。 ○ポッチャ等の障害者スポーツを関係機関と連携して振興を図る。	○文化・芸術・スポーツに関連した行事・校外学習の実施 ○全児童生徒一人一品以上の作品の出品 ○障害者スポーツ大会への初参加生徒3名、全参加者10名以上 ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施回数5回以上	○文化・芸術・スポーツに関連した校外学習の実施内容、実施場所の開拓をする。 ○出品可能な作品展を広く周知する。 ○作品展への出品作品の作成を年間学習計画に位置付ける。 ○障害者スポーツセンターとの連携を更に進める。 ○授業、クラブ活動での障害者スポーツの取組を推進する。 ○交流及び共同学習での、ポッチャの積極的な取組推進と、本校でポッチャ大会を関係機関と連携して企画・開催する。	A ○出品率47/62(75.8%) ・紙とあそぼう作品展 ・スピリットアート展 ・肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展他 ○障害者スポーツ大会参加者8名(申込のみ2名含む) ○初出場3名(初種目、申込のみ含む) ○交流等でのポッチャ実施回数 ・実施1回(戸波中) ・計画4回(春野中、池川中、高知市商、ジュニアポッチャ大会) ・ポッチャ体験教室:台風による中止	A ■文化・芸術の振興 教職員①41.0% ②44.6%③8.4%④6.0%【肯定:85.6%】 ◇寄宿舍でも芸術鑑賞会を実施した ○校外学習の取組(オーテピア、春野運動公園、映画館、高知歴史博物館など) ○出品率47/62(75.8%) ・紙とあそぼう作品展 ・スピリットアート展 ・肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展他 ■障害者スポーツの振興 教職員①30.1% ②49.4%③19.3%④1.2%【肯定:79.5%】 ◇アーチェリーやポッチャなど成果が新聞に掲載されている ◇障害者スポーツセンターで舎外活動を実施している ○障害者スポーツ大会参加者8名(申込のみ2名含む) ・全国障害者スポーツ大会出場者(3名) ・高知龍馬マラソン(ファンラン)への参加(10名) ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施回数(5回) ・戸波中学校 ・春野中学校 ・池川中学校 ・高知商業高等学校 ・ジュニアポッチャ大会(参加者16名(本校9(初3)、分校4、他校1、卒生2))	A ■文化・芸術の振興 児童生徒①47.4% ②31.6%③21.1%④0%⑤0%【肯定:79%】 ◆恥ずかしいという思いがある 自分の作品を見てもらうことに対して、自信がない 保護者①72.2% ②25.9%③1.9%④0%⑤0%【肯定:98.1%】 開かれた外部委員 ◇芸術「模写」が素晴らしい 教員の指導、支援が的確なのだろう しかし、生徒の自己評価が低いので更に達成感を味わわせてあげたらと思う ■障害者スポーツの振興 児童生徒①73.7% ②10.5%③5.3%④10.5%⑤0%【肯定:84.2%】 ◇体育の時間にスポーツが体験できてうれしい ◆スポーツに対しては興味関心がない 苦手だ 保護者①66.7% ②25.9%③5.6%④0%⑤1.9%【肯定:92.6%】 ◇ポッチャに力を入れているように思う スポーツ大会に多く参加して、頑張っている ◆具体的な活動がはっきりしていなくて、どんなスポーツがあるかわからない ◆重度の生徒も運動クラブに入部できたらよいと思う 開かれた外部委員 ◇龍馬マラソンについては、自分から「出てみたい」と言った初めてのことで喜んでいる	■出品率の向上 ・作品展を意識した年間計画の作成 ・スキル(基礎・基本)の習得 ・児童生徒の強みを生かした作品制作 ■スポーツ大会等への参加者の増加 ・逐次、大会参加要項等を廊下等に掲示し、参加意欲の喚起 ・スポーツ大会の活躍を掲示 ■児童生徒の社会参加を目的としたパラスポーツの普及啓発 ・学校間交流において、ポッチャ等パラスポーツの計画 ■障害の重い児童生徒の体育やスポーツの検討 ・児童生徒の主体的な動きを引き出す活動の研究 ・学習グループの検討
(学校設定あく項や目職りの実の現)	働きやすく定あく項や目職りの実の現	◎時間と労力の無駄を省き、子どもに向き合う時間を確保する。 ○校務分掌等の整理や業務内容の精選・見直しにより、会議の縮減と時間の短縮を図る。 ○人材活用や書類の精選・合理化により、授業準備に充てる時間を捻出する。	○教員の教材研究の時間確保満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」・「ややそう思う」回答)70%以上 ○学部会の開催、月3回以下 ○人材活用や書類の精選・合理化の徹底	○分掌、専門員会の業務内容を精選・見直しすることにより明確化する。 ○会議の議題の事前周知等の進行方法について確認し、時間短縮に取り組む。 ○教材準備の時間確保について検討、実施する。 ○ノー残業デイ(木曜日)の18時施錠を徹底する。	C ○学部会の開催 ・会議時間を10分短縮して実施している学部あり ○19時退勤は、ほぼ100%で実施 ○ノー残業デイは10月18日実施予定	C 働きやすくやりがいのある職場の実現 教職員①14.5% ②41.0%③25.3%④19.3%【肯定:55.5%】 ◆教員の教材研究の時間確保満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」・「ややそう思う」回答)55.5% ○2学部が会議の時間を10分短縮して実施 ○19時退勤は、ほぼ100%で実施 ○ノー残業デイは10月より月1回実施	B 開かれた外部委員 ◆取組がすごい分、教員たちは休めないのではないかな 働きやすい職場との両立は難しい課題である ◇「働きやすくやりがいのある職場の実現」については難しいのだろうが、教職員への働き掛けが参考になった	■教員の教材研究の時間確保 ・教員の満足度60%以上をめざす ・会議開催の工夫、時間短縮、削減(取組を数値化し「見える化」を図る) ■休憩時間の確保 ■ノー残業デイの継続実施